



## プロジェクトの成果報告イベント ～環境学部授業例より～

毎週、各グループの活動を報告する環境学専攻の授業。フロアにはグループでの活動紹介のパネルが展示され、積極的に説明する学生の姿が印象的だ。活動内容は、マイ箸持参のイベント、食育、キャンドルナイト、まちおこし、農作物関連、スポーツごみ拾い、小学校と連携した環境教育、幼児教育、サンピアの自立支援などと幅広い。

本文にあった産学協同プロジェクト「ECO REPORT WAY21」もグループワークの一つで、リーダーの久保川みのりさんは「1年生のときは会議に出ても何を話していいかわかりませんでしたが、自分なりに勉強し先輩にも教えられ、今では会議で意見を述べ、問題点を探ることで、解決への糸口が見えるようになりました」と話す。また、新キャンパスを環境実践のフィールドと捉えて活動するグループは「有明エコキャンパス化」。連携する「Yes My Bottle」は、持参した容器で自販機の飲料が買えるようにするグループで、有明と武蔵野のキャンパスでの実現を目指す。このアイデアを学長に提案し、自販機メーカーと飲料メーカーに交渉中だ。メンバーの宮川昂大さんは「活動を通して、流通過程には無駄が多いと気付きました。今は調査中ですが、賛同し協力していただけるメーカーを探しています」。

自身の活動に誇りを持ち真剣に取り組んでいる学生たちは、プレゼンや議事録作成などのスキルを身に付け、NPOや自治体、企業との連携で視野を広げ、社会へ出て歩む力を育んでいる。



ステージが併設された構内で、各グループがパネルを展示している授業風景。企業の展示ブースにもつながるような学習環境で発表し合い、刺激を得ているようだ

環境学部 佐々木重邦教授。  
「これからの中にはすべての部署で環境の視点が必要だと思います。発表や対話を経験を積んだ学生は成長が著しいので、企業のプロジェクトでも活躍できるでしょう」



産学協同プロジェクト「ECO REPORT WAY21」のリーダー、久保川みのりさん（写真左）。「明るい会議を心掛けています」



「Yes My Bottle」のグループメンバー。マイボトル持参でキャンバスに通える日を思い描きながら、活動自体を楽しんでいるという、宮川昂大さん（写真左）



まったくもの、企業やNPO法人からの呼び掛けに参加したものなどさまざま。中でも産学協同プロジェクト「ECO REPORT WAY21」は、NPO法人と企業が未来の環境リーダー育成を目的に企画し、企業が発行するCSR・環境報告書を学生が設定した独自の指標を基に、武蔵野大学および他大学の学生が分析・評価するというものです。担当した環境学部の佐々木重邦

教授は、「学生の視点での指標について、企業の方の納得感が得られるか否かがポイントでした。ご協力をお願ひした企業さまからは、学生の指摘が社内の課題点と一致しており参考になりましたとのご意見をいただきました。学生は自信につながり、企業は新鮮な視点が得られ、双方にメリットがあるとわかりました。特に学生は自身で考え計画し実行していくのでPDCAを回す力が高まり、学年を超えた交流で育てていきました」

武蔵野大学の一キヤリア開発プロジェクト「は、二キャンパス一体化の構想で新たな広がりを見せる一方、各授業ではテーマをより深く掘り下げている。それらは確実に「考え方抜き、前に踏み出し、チームで行動する力（社会人基礎力）」を含めた学生の能力を引き出し、さらに発展しようとしている。



### 月刊総務とは

総務部門向けに全国販売される唯一の専門誌

#### ●概要

創刊…昭和38年6月

定価…960円（税込、送料別）

発売日…毎月8日

発行部数…38,000部／版型B5版

- ・読者層は、購買決定権をもつ管理者層を中心
- ・各社スタッフ部門で定期購読され、回読率は平均4人以上
- ・会社の資料として保存され、必要に応じて活用される

